

ユニオンファンド 月次レポート

第 108 号

追加型投信 / 内外 / 株式 分配金再投資専用ファンド

2017年11月7日作成

MONTHLY TOPIC

ユニオンファンド 10周年に向けて

お陰様でここまで来ました

ユニオンファンドは去る10月2日に第9期の決算日を迎えました。リーマンショックの大嵐の中でのスタートでしたが、その後の投資環境がおおむね順調だったことと、組み入れている各ファンドの健闘のお陰で、10月末までの基準価額の上昇率は年率（複利）で約11%という成果を上げることができました。

また、運用資産を示す純資産総額も、ファンド設定日の2008年10月20日は1億800万円でしたが、9年を経て60億円に手が届くところまで増加してまいりました。基準価額が上昇したこともありますが、なにより、多くのお客様が積立投資とスポット購入を続けてくださったことが、純資産増加の最大の要因です。当ファンドを支えてくださいました皆様に改めてお礼を申し上げます。

来年4月にはユニオン投信設立10周年、9月末には第10期決算、10月20日にはファンド設定から丸10年となります。その先の10年を見据え、さらに成長して皆様の財産づくりのお役に立つために、この1年でやるべきことがたくさんあると思っています。皆様にも引き続きご支援をよろしくお願いいたします。

次の10年に向けてやりたいこと

前期はコムジェスト・ヨーロッパ・ファンドを新規に組み入れました。資産規模が拡大したことで、ユニオンファンドの成長にとって最も重要である優れた組入対象の拡充がやりやすくなってきました。一層の分散効果の追求も可能となります。今期も引き続き新ファンドの採用に向けて慎重かつ前向きに検討を続けてまいります。

組入比率の決定プロセスもさらに高度化させていきたいと考えています。当ファンドは、割高な局面では現金の保有比率を高めて下落時の買い付けに備えることを運用方針のひとつに掲げています。こうした運用は、一貫した上昇相場の中ではともすれば組入比率を低位に据え置きがちとなり、結果的に利益を取り損なう可能性をもちあわせています。また、為替相場の変動は、基準価額に非常に大きな影響を与えることもあります。こうした点を考慮し、目先の相場観ということではなく、あくまでも長期的な視点に基づき、資産・通貨の配分をどのように行えばよりよい成果につながられるのか、さらに研究・検討を進めてまいります。

最後に、これは繰り返し申し上げていることですが、じょうずに無理なく財産づくりを続けていただくには、お客様の運用会社への信頼感やファンドの理解がとても重要です。運用成績の向上はもちろん、より信頼される会社、納得できるファンドを目指し、情報を的確にお伝えするための改善を進めていきたいと考えています。

運用責任者 久保田徹郎

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。◆当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

UNION FUND REPORT

ユニオンファンド運用状況

(2017年10月末現在)

基準価額

25,835 円

純資産総額

59 億 81 百万円

期間別騰落率(%)

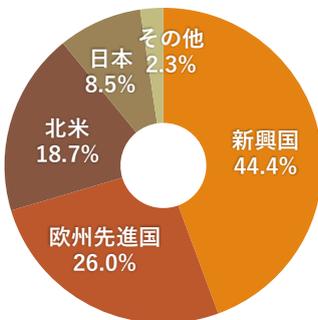
1 ヶ月	3.40%
6 ヶ月	12.06%
1 年	26.51%
3 年	28.81%
5 年	103.39%
設定来	158.35%

複利年率(%)

11.08%

*「複利年率」とは設定日から基準日までの騰落率を年率（複利）で表したものです。「複利年率」は過去の実績値であって、将来の成績を約束するものではなく、また受益者ごとの購入時期によって異なります。

地域別構成比



投資部分(現金等を除く)に占める比率
(2017年9月末現在)

基準価額と純資産総額の推移



組入ファンドの内訳

ファンド名	主な地域	組入比率(%)	月間騰落率(%)※
さわかみ F	日本	7.3%	5.9%
キャピタル F	欧米	13.6%	3.3%
ハリス F	欧米	22.0%	2.0%
コムジェスト・ヨーロッパ F	欧州	4.4%	2.2%
コムジェスト・エマージング F	新興国	38.6%	5.4%
現金等	-	14.1%	-

※ 騰落率はユニオンファンドの基準価額に反映する日付で計算

ファンドの特長

- ① 長期で「債券」の収益率を上回るとされる「株式」に投資します
- ② 世界の経済成長を享受するため、「グローバル」な視点で投資します
- ③ 専門性の高い複数ファンドに投資する「ファンド・オブ・ファンズ」で運用します
- ④ 実績のある資産運用会社の「アクティブ」ファンドに投資します
- ⑤ 株価が割高と思われるときには現金比率を高め、割安局面での買い増しに備えます

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。◆当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

UNION FUND REPORT

2017年10月の市場動向と運用状況

投資環境と基準価額の推移

世界の景気は順調に拡大しています。IMFが10月に発表した世界経済見通しでは、今年、来年のGDP成長率見通しがともに上方修正されました。先進国、新興国を問わず好調さが増している点が特徴のひとつで、世界はほぼ満遍なく景気拡大局面にあると言えます。特に欧州の上方修正が目立つ内容でした。

景気と企業業績の緩やかな拡大を背景に、株価は好調に推移しました。夏に大きなハリケーン被害があった米国でも、市場の予想を上回る決算が多めとなっています。日本では、総選挙で与党が勝利したことや、今期（2018年3月期）の利益予想が上方修正気味となっていることなどから、海外投資家による積極的な投資が続きました。株価は連騰記録を交えて先進国の中で最大の値上がりとなりました。

為替市場では、今年に入って軟調だったドルの反発が続き、円は総じて弱い動きとなりました。米国景気が心配されたほど悪くなく、この12月にも利上げが行われると予想される一方、欧州中央銀行の利上げは相当先との予想が広がったことから、ユーロ安ドル高が進みました。また、市場の警戒材料だった米国と北朝鮮の対立は小康状態が続き、経済とともに政治面も安定してきたことを背景に、円を借りてリスク資産を買う動きが強まったことも、円安の背景と見られます。通貨先物市場では、短期投資家の円売り・ドル買いポジションの積み増しがさらに進み、ドルの上昇を支えました。

こうした中、ユニオンファンドは値上がりし、設定来の高値を更新しました。世界の株式市場は揃って上昇し、為替もユーロが対円で若干下落した以外、概ね円安傾向でした。このため組入ファンドは全て値上がりしました。なかでも、組入比率が最大のコムジェストEMが大きく値上がりしたことがユニオンファンドの基準価額上昇に寄与しました。3月以降、半年以上にわたって市場を上回り続けてきたハリスFは市場の上昇に追従できなかったものの、他の4ファンドはいずれも市場を上回る値上がりとなりました。

運用の状況

株価は上昇傾向をたどり、為替も円安が続いたため、買い増しは見送りました。月末時点の組入比率は85.9%で、9月末とほぼ同水準となっています。

今後の見通しと運用方針

北朝鮮問題のほか、中国の債務問題、米国を中心とする金融政策の引き締め方向への転換は、市場の混乱を招く可能性を引き続きはらんで見えています。直近の株価上昇率が大きかったこと、日米で投資家心理がかなり楽観サイドに傾いていることから、若干の調整もあり得る状況とされます。とはいえ、世界の経済と企業業績の拡大は続く可能性が大きく、趨勢としては株価上昇が続くと考えています。新興国はドル高を嫌気して株価と為替がややもたついていますので、同じく通貨が軟調となっている欧州株と合わせ、買い付けを行う方針です。

運用責任者 久保田徹郎

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。◆当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

さわかみファンド

基準価額の推移



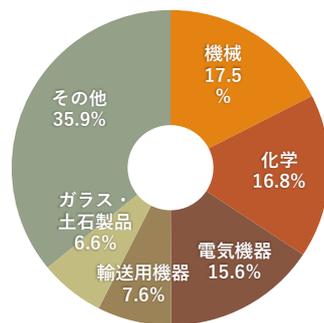
国別構成比



組入銘柄トップ 10

組入銘柄等	比率	国籍	業種	業務内容等
1 ブリヂストン	5.0%	日本	ゴム製品	タイヤ世界首位
2 日本電産	4.7%	日本	電気機器	精密モーター世界首位
3 ダイキン工業	3.4%	日本	機械	エアコン世界首位
4 TOTO	3.4%	日本	ガラス・土石製品	衛生陶器首位
5 花王	3.2%	日本	化学	トイレットペーパー首位
6 信越化学工業	3.1%	日本	化学	塩ビ・シリコンエー世界大手
7 国際石油開発帝石	2.7%	日本	鉱業	石油メジャー
8 トヨタ自動車	2.6%	日本	輸送用機器	自動車世界大手
9 浜松トナックス	2.5%	日本	電気機器	光検出器の世界的企業
10 デンソー	2.3%	日本	輸送用機器	世界的自動車部品メーカー
上位 10 銘柄	32.9%		現金等	10.1%

業種別構成比



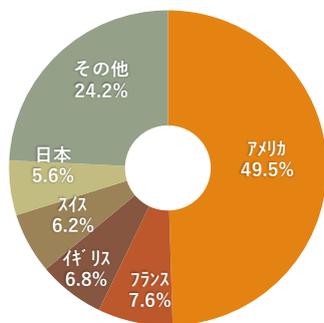
※ 業種：東証 33 業種、構成比：投資部分(現金等を除く)に占める比率 < 2017 年 10 月末現在 >

キャピタル F (キャピタル・グループ・グローバル・エクイティ・ファンド(LUX)クラス Z)

基準価額の推移



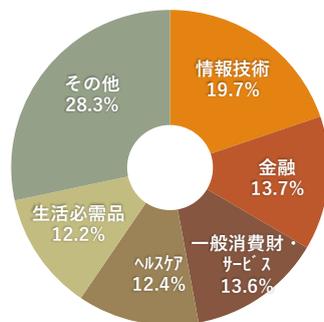
国別構成比



組入銘柄トップ 10

組入銘柄等	比率	国籍	業種	業務内容等
1 ASML	2.6%	オランダ	情報技術	半導体製造装置メーカー
2 Microsoft	2.6%	アメリカ	情報技術	世界最大のコンピューター・ソフト
3 TSMC	2.2%	台湾	情報技術	半導体メーカー
4 Incyte	2.1%	アメリカ	ヘルスケア	医薬品メーカー
5 Visa	2.0%	アメリカ	情報技術	世界有数のクレジットカード
6 Alphabet	2.0%	アメリカ	情報技術	グーグルの持ち株会社
7 AIA	1.7%	香港	金融	生保・金融サービス
8 CME	1.7%	アメリカ	金融	先物等の国際的取引所
9 Pernod Ricard	1.6%	フランス	生活必需品	アルコール飲料、食品
10 Nestle	1.5%	スイス	生活必需品	世界最大の食品飲料会社
上位 10 銘柄	20.0%		現金等	5.5%

業種別構成比



※ 業種：MSCI 世界産業分類基準の 11 セクター、構成比：投資部分(現金等を除く)に占める比率 < 2017 年 9 月末現在 >

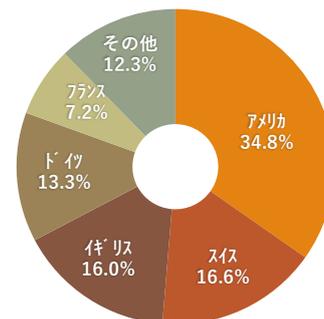
◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。◆当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

ハリスF (ALAMCO ハリス グローバル バリューストックファンド 2007)

基準価額の推移



国別構成比 (マザーファンド)



組入銘柄トップ10 (マザーファンド)

組入銘柄等	比率	国籍	業種	業務内容等
1 DAIMLER	5.6%	ドイツ	自動車・自動車部品	世界自動車大手
2 CREDIT SUISSE	5.2%	スイス	各種金融	スイス大手銀行
3 GLENCORE	5.1%	イギリス	素材	鉱山開発・商品取引
4 BNP PARIBAS	5.0%	フランス	銀行	フランス大手銀行
5 ALLIANZ	4.7%	ドイツ	保険	総合保険大手
6 CNH INDUSTRIAL	4.6%	オランダ	資本財	農機・建機メーカー
7 JULIUS BAER	3.8%	スイス	各種金融	プライベートバンク
8 GENERAL MOTORS	3.8%	アメリカ	自動車・自動車部品	米ビッグ3の一角
9 GENERAL ELECTRIC	3.5%	アメリカ	資本財	航空機エンジン、発電機等
10 CITIGROUP	3.3%	アメリカ	銀行	金融大手
上位10銘柄	44.5%		現金等	2.5%

業種別構成比 (マザーファンド)



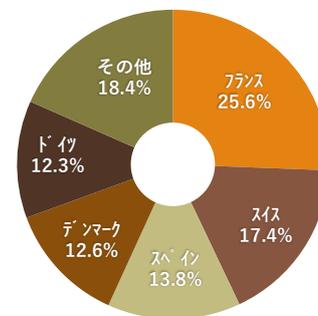
※ 業種：MSCI 世界産業分類基準の 24 産業グループ、構成比：投資部分(現金等を除く)に占める比率 <2017 年 9 月末現在>

コムジェスト・ヨーロッパF (ニッポンコムジェスト・ヨーロッパ・ファンド SA)

基準価額の推移



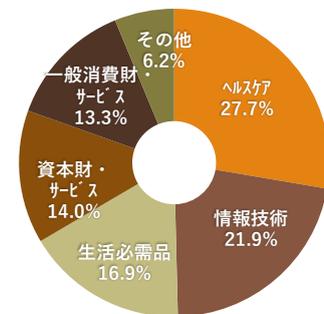
国別構成比 (マザーファンド)



組入銘柄トップ10 (マザーファンド)

組入銘柄等	比率	国籍	業種	業務内容等
1 INDITEX	7.0%	スペイン	一般消費財・サービス	ファッショナー
2 AMADEUS	6.1%	スペイン	情報技術	旅行予約システム
3 ESSILOR	4.8%	フランス	ヘルスケア	光学製品
4 COLOPLAST-B	4.7%	デンマーク	ヘルスケア	人工肛門世界大手
5 DASSAULT SYSTEMES	4.4%	フランス	情報技術	欧州大手 3D ソフト会社
6 WIRECARD	4.3%	ドイツ	情報技術	オンライン決済
7 AB FOODS	4.0%	イギリス	生活必需品	食品製造・衣料小売
8 SARTORIUS STEDIM	3.8%	フランス	ヘルスケア	ウイルス除去フィルター
9 L'OREAL	3.6%	フランス	生活必需品	化粧品世界最大手
10 SAP	3.6%	ドイツ	情報技術	ビジネス向け大手ソフトウェア
上位10銘柄	46.2%		現金等	4.9%

業種別構成比 (マザーファンド)



※ 業種：MSCI 世界産業分類基準の 11 セクター、構成比：投資部分(現金等を除く)に占める比率 <2017 年 10 月末現在>

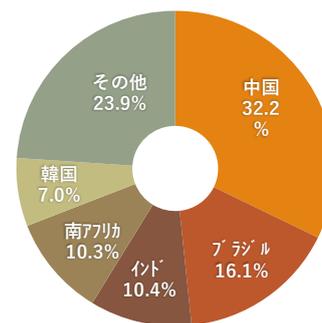
◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。◆当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

コムジェスト・エマージングF (ニッポンコムジェスト・エマージングマーケット・ファンド SA)

基準価額の推移



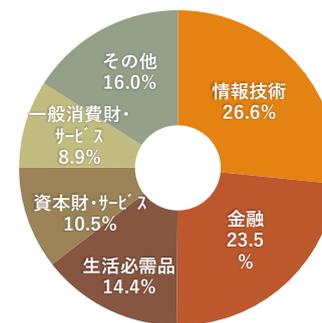
国別構成比 (マザーファンド)



組入銘柄トップ10 (マザーファンド)

組入銘柄等	比率	国籍	業種	業務内容等
1 TSMC ADR	5.5%	台湾	情報技術	半導体メーカー
2 CHINA LIFE	4.6%	中国	金融	生保国内最大手
3 POWER GRID OF INDIA	3.7%	インド	公益事業	電力関連 (送電網)
4 NETEASE ADR	3.7%	中国	情報技術	オンラインゲーム
5 PING AN INSURANCE	3.6%	中国	金融	保険大手
6 SAMSUNG LIFE	3.6%	韓国	金融	生保
7 BAIDU ADR	3.3%	中国	情報技術	検索エンジン世界2位
8 MTN	3.3%	南アフリカ	電気通信サービス	携帯電話
9 INNER MONGOLIA YILI	3.1%	中国	生活必需品	乳製品国内大手
10 COGNIZANT TECHNOLOGY	3.0%	アメリカ	情報技術	インドに受託拠点を置くIT会社
上位10銘柄	37.4%		現金等	2.8%

業種別構成比 (マザーファンド)



※ 業種：MSCI 世界産業分類基準の 11 セクター、構成比：投資部分(現金等を除く)に占める比率 <2017年10月末現在>

ショートコメント

独立系運用会社のさきがけ、さわかみ投信

金融機関に属さない、いわゆる独立系の運用会社の先駆けとなったのが、さわかみ投信です。金融機関に頼らず自ら販売する直接販売(「直販」)というスタイルを確立した日本で最初の会社でもあります。

ユニオンファンドは現在、さわかみ投信、キャピタル、ハリス、コムジェストという4つの運用会社とお付き合いしていますが、いずれも独立系です。海外では、こうした運用会社は少なくありません。しかし日本では、投資信託が証券会社の一部門として設立され発展してきたという経緯もあり、投資信託は証券会社の一商品(収益源)という位置づけに長くどまってきました。90年代に入り、海外の運用会社に門戸が開かれ、銀行や保険会社も資産運用部門を投信会社として分離・独立させるなどして、投資信託事業に相次いで参入するようになりました。

こうした折に、投資信託は一般家庭が財産を作るために運用され販売されるべきだとの考えから、さわかみ投信は設立されます。販売にあたっては、投資に対する考え方や方法などを直接お客様にお伝えし、理解を深めていただくという、これまで金融機関が行ってこなかった独自の方法をとってきました。

さわかみ投信は、さわかみファンドただ一つしか運用していません。ここには、次から次へとファンドを粗製乱造するのではなく、一つのファンドと長くお付き合いいただき財産づくりに役立ててほしいという、設立時からの願いが示されていると私は感じています。

(運用責任者 久保田徹郎)

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。◆当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

NOTICE

業務管理部からのお知らせ

未成年のお客様の定期定額購入について

未成年のお客様が定期定額購入をご利用いただく場合、毎月 3,000 円から始めることができます。お子様の教育費や将来の資産形成のために、毎月コツコツ積立投資を始められてはいかがでしょうか？口座開設資料のご請求は弊社ホームページまたは業務管理部（TEL:0263-38-0725）で承っております。

【定期定額購入サービス新規お申込み時】

- ◎ お申込みされるお客様が未成年である場合は、3,000 円以上 1 円単位 で購入できます。
- ◎ 自動引落としにご指定いただける金融機関は、ご本人様（お子様）名義の口座に限りです。

【引落とし金額の変更について】

定期定額購入開始時に未成年であったお客様が、成人された後に金額変更をご希望される場合、変更後の金額は 10,000 円以上 1 円単位でご指定いただきます。*

※ 成人された後、引落とし金額を変更されるまでは、未成年時にお申込みいただいた金額が継続されます。

定期定額購入の引落しができなかった場合について

引落先金融機関の口座から「残高不足」等で引落しができなかった場合、当月の定期定額購入は行いませんが、翌月以降は通常通りのご指定金額で引落しを行います。なお、引落しできなかった分を翌月まとめて引落しすることはできません。

当月引落しできなかった分の購入をご希望される場合は、スポット購入による方法にてご購入ください。また、定期定額購入と同じタイミングでの購入をご希望される場合は、当月の引落日より 6 営業日後の日にスポット購入代金をお客様専用の「ファンド購入用振込先口座」へお振込みください。引落日等、各月の詳しい情報は弊社業務管理部（TEL:0263-38-0725）までお問い合わせください。

- ※ スポット購入の振込手数料はお客様のご負担となります。
- ※ スポット購入の「ファンド購入用振込先口座」につきましては、口座開設いただいた際に弊社より簡易書留郵便にてお送りいたしました「総合取引口座【新規】お客さま控え」に記載しております。（お客さま控えの再発行をご希望される場合は弊社までご連絡ください。）

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。◆当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

RISK AND FEE

ユニオンファンドのリスク・手数料

『ユニオンファンド』のリスク

－ 詳しくは、「投資信託説明書（交付目論見書）」の「投資リスク」をご覧ください。－

ユニオンファンドは、主に国内外の株式などに投資する投資信託証券等に投資するファンド・オブ・ファンズの形式で運用を行います。組入れる投資信託証券等は、株価変動、金利変動や債券発行者の経営・財務状況の変化等で値動きします。また、為替相場の影響を受ける投資信託証券等もあるため、ファンドの基準価額も変動し、損失を被ることがあります。したがって、投資家の皆様の投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。

当ファンドの主なリスクは、「価格変動リスク」、「為替変動リスク」、「カントリーリスク」、「信用リスク」、「流動性リスク」です。

『ユニオンファンド』の手数料等

－ 詳しくは、「投資信託説明書（交付目論見書）」の「手続・手数料等」をご覧ください。－

申 込 手 数 料 お申込みにあたって弊社にお支払いただく手数料はありません。
※スポット購入時の購入用口座への振込手数料はお客様負担となります。

換 金 手 数 料 ご換金（解約）にあたって弊社にお支払いただく手数料はありません。

信 託 財 産 留 保 金 信託財産留保金はありません。

信 託 報 酬 純資産総額に年 0.864% (税抜き 年 0.8%) の率を乗じて得た額です。
毎日、当ファンドの信託財産より控除されます。
[*実質的な信託報酬：純資産総額に対して年 1.8% ± 0.3% (概算)]
* 『ユニオンファンド』が投資対象とする投資信託証券でかかる信託報酬を含めた率です。
目安であり、組入状況により変動します。

そ の 他 の 費 用 上記のほか、次の手数料・費用等が当ファンドの信託財産より控除されます。

- ① 組入有価証券等の売買の際に発生する売買委託手数料(消費税等相当額の費用を含みます)
- ② 信託事務の処理に要する諸費用、受託会社の立替えた立替金の利息、監査法人から監査を受けるための費用(監査費用)(消費税等相当額を含みます)

※ 監査費用は委託会社が一部または全部を負担することがあります。

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。◆当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。